大学基準５．学生の受け入れ

中期目標

【目標１】学生の受け入れ方針を明示し、教育目標や学位授与方針、教育課程の編成・実施方針に基づいた人材育成の成果と比較・検証することで、これを適切に維持する。

【目標２】適切な定員を設定して学生を受け入れるとともに、過去５年間の入学定員に対する入学者数比率の平均並びに、収容定員に対する在籍学生比率の平均を 1.00 とする。

（１）広報入試委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1] 当該学科に入学するにあたり、求める学生像及び修得しておくべき知識等を事前に明示する。 [1-2] それぞれの入試制度に基づいた選抜方法を明示するとともに、選考方法、出題内容、合否判定が適切かどうかを検証し、適正化を図る。 [1-3] それぞれの入試制度並びに成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当した入学生の学修成果について検証・評価する。	[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①~~学生満足度調査~~→各奨学金対象者調査 ②~~卒業生満足度調査~~→各奨学金対象者調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 ⑦成績優秀者奨学金該当者等成績一覧

2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 高大接続システム改革に伴い、新たに策定されたアドミッションポリシーについて、受験生や高校へ十分周知する。	[1-1] 新たに策定されたアドミッションポリシーについて、ＨＰ、入試ガイド等で受験生や高校へ十分に周知を図った。	[1-1] 新たに策定されたアドミッションポリシーについて、ＨＰ、入試ガイド等で受験生や高校へ十分に周知を図った。
	[1-2] 募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。	[1-2] 募集定員、入試制度、選抜方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示し、入学後の成績・学籍状況（入試種別ごと卒業率、就職率、中退率等）を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうか関係部署と連携し検証・評価した。今後は、今年度より導入したスカラシップ制度についても、得点率の妥当性等検証する。	[1-2] 募集定員、入試制度、選抜方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示し、入学後の成績・学籍状況（入試種別ごと卒業率、就職率、中退率等）を調査し、それぞれの制度における判定が適切かどうか関係部署と連携し検証・評価した。今後は、今年度より導入したスカラシップ制度の得点率の妥当性や、成績優秀者奨学金制度（推薦入試）との兼ね合いも併せて検証する。
	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を可視化する。	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生に対して、「奨学生状況経過報告書」を提出させ学修状況・成果の把握について、可視化した。	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生に対して、「奨学生状況経過報告書」を提出させ学修状況・成果の把握について、可視化した。

2018年度	年次計画内容
	[1-1] 高大接続システム改革に伴い、新たに策定されたアドミッションポリシーについて、受験生や高校へ十分周知すると共に、今後は全ての入試制度においても、アドミッションポリシーを踏まえた入試評価を前提とする。
	[1-2] 募集定員、入試制度、選考方法等について、入試ガイド、ＡＯガイド、ＨＰ、入試要項等に明示するほか、入学後の成績・学籍状況を調査し、それぞれの制度における選考方法と合否判定が適切か検証・評価する。特に、新しく導入したスカラシップ入試制度については、出願者および入学者の層を見つつ、合格レベルについても今後検証・評価を続ける。
	[1-3] 成績優秀者奨学金、資格取得者奨学金、課外活動特待奨励金に該当する学生の学修状況・成果の把握を引き続き可視化し、担当部署および担当教員とで共有する。また、上記スカラシップ特待生についても同様とする。

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）	達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適正化を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の未充足に対する対策を検討する。 [2-3] 各学部の合否基準を明確にし、一定の学力・意欲・適応力のレベルを保ちつつ、偏差値を意識しながら、中期的に安定した定員充足が出来るような学生募集方法を検討し、その成果を検証する。	[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 [2-3] ①合格最低点、得点率、手続者数一覧 ②年度別入学者の平均点一覧 ③年度別休退除籍者数一覧 ④各学科修学指導対象者一覧

2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 2018 年度入学者 650 名、2019 年度入学者 700 名、2020 年度入学者 750 名を目標として、今後 3 年間で安定的な定員が確保出来るよう様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。	[2-1] 今後 3 年間で安定的な定員が確保出来るよう入試広報活動を推進した。特に今年度は心理学部開設に向けた年度であるため心理学部広報を強化する形で進めた。	[2-1] 2018 年度の入学者 650 名を目標としてすすめてきた。心理学部開設およびスカラシップ制度の導入を全面に出し入試広報活動を推進した結果 705 名と大幅に目標を達成した。今回は定員充足率も 88.7%と大きく上昇した。

	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図る。 ②大学進学セミナーの参加者数の増加及び本学オープンキャンパスと併せて参加させるための広報及び企画の充実を図る。 ③入学案内、入試ガイド、支援力レポート、学科チラシ、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえる、そして本学を選ぶ手段の一つとなるよう製作する。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加する。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化する。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトを充実させ、申込数の増加を図る。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見つつ広報媒体を見直す。	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図った。特に参加者の質の向上、女子学生の獲得を重点的に実施。 ②大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図ったが、純粋な参加者を増加させることは出来なかった。来年度は、集客の弱い地域を絞り、大学進学セミナーに向けたイベントを実施予定。 ③入学案内、入試ガイド、支援力レポート、学科チラシ、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえる、そして本学を選ぶ手段の一つとなるよう製作した。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加した。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を強化した。特に心理学部開設にあたり、石狩地区での強化として心理学部教員でチームを組み約 50 校訪問、また、沖縄地区出願者獲得へ向け、初の校内ガイダンスへの参加を実施した。結果、Ａ日程において 2 名の出願があった。沖縄地区開拓に向けては最低 3 年間継続をもって計画したい。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトも充実させ、申込数が昨年比 1.2 倍となった。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見ながら各業者の広報媒体を見直した。	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数を増加させ、目的意識の高い参加者を募るための広報及び企画の充実を図ってきた。参加者数が大きく増減することはなかったが、参加者の質の向上、女子学生の参加増がみられた。 ②大学進学セミナーの参加者数を増加させるための広報及び企画の充実を図ったが、純粋な参加者数が大幅に増えることはなかった。しかし、参加者数に見合う規模の会場へ変更することにより、アットホームな環境を作り、参加者からは好評であり、なおかつ経費削減につなげた。来年度は、集客の弱い地域を絞り、大学進学セミナーに向けたイベントを実施予定。 ③入学案内、入試ガイド、支援力レポート、学科チラシ、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえる、そして本学を選ぶ手段の一つとなるよう製作した。なお、来年度予算計上されなかった学科パンフレットについては、各学部でトピックスを制作し、対応可能な範囲で学内印刷する予定。 ④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、職員学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加した。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問をさらに強化した。来年度も心理学部開設にあたり、石狩近郊の強化、北東北や沖縄地区においても、継続的に行ないたい。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等のメニューを紹介するサイトも充実させ、申込数が昨年比 1.2 倍となった。幅広い周知や申込数の増も重要だが、高大連携の本来の意味も考えつつ今後も進めていきたい。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を検証し、年度途中であっても広告媒体の見直しを図りつつ進めている。
	[2-3] ①全ての入試制度において、高大接続システム改革を視野にいれ、見直し検討する。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討すると共に、広報を強化する。	[2-3] ①全ての入試制度において、高大接続システム改革を視野にいれ、見直しの検討を始めた。　→高大接続改革対策検討委員会発足 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討し、広報を強化した。今年度はスカラシップ制度導入もあり、受験料試算においても利便性を強く広報した。インターネット出願 4 年目の今年度だが、ネット出願率は一般・センター共に上昇。	[2-3] ①全ての入試制度において、高大接続システム改革を視野にいれ、見直しの検討を始めた。　→高大接続改革対策検討委員会発足、2 年前告知を念頭に入れ、来年度 6 月には周知開始。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討し、広報を強化した。今年度はスカラシップ制度導入もあり、受験料試算においても利便性を強く広報した。また、インターネット出願システムについては、同業者で 4 年目となるが、来年度は他業者での見直しを検討し、同内容で経費削減を目指したい。
2018 年度	年次計画内容		
	[2-1]　2019 年度は入学定員確保、2020 年度以降も入学定員を確保し、大学としての収容定員充足率 100%を目標として、様々な入試広報活動を推進し、検証・評価する。		
	[2-2] ①オープンキャンパスの参加者数の増加及び目的意識の高い参加者のリピート率をあげるための広報及び企画の充実を図る。 ②大学進学セミナーの参加者数の増加及び本学オープンキャンパスと併せて参加させるための広報及び企画の充実を図る。 ③大学案内、入試ガイド、支援力レポート、ＨＰなど、大学及び学部学科の売り、実績を伝えられるような広報物を関係部署と連携し、高校生に見てもらえ、そして本学を選ぶ決め手の一つとなるよう製作する。		

	④直接接触型の進学相談会、校内ガイダンスを重視し、学生募集プロジェクトメンバー及び広報入試委員と連携して、可能な限り参加する。但し、他の業務（高校訪問等）と抱き合わせにするなど、予算削減を心がける。 ⑤広報入試課及び各学科と高校訪問の連携を図り、北海道、北東北地区における訪問を引き続き強化する。 ⑥高大連携プログラムでは、出張講義、大学説明、大学見学、さらには教員向けの大学説明等を紹介するため、引き続きサイトを充実させ、申込数の増加を図る。 ⑦資料請求登録システムを活用し、システムの解析データ及び費用対効果を見つつ広報媒体を見直す。
	[2-3] ①全ての入試制度において、高大接続システム改革に向けて、「高大接続改革対策検討委員会」にて、引き続き検討する。 ②インターネット出願の利便性、経済性について引き続き検討すると共に、引き続き広報を強化する。

（２）アクセシビリティ推進委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1]①入試要項、ホームページでの公開 [1-2]①GPA　②進路決定状況（業種別等を含む）　③資格等取得状況　④学位授与率・４年間卒業率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」をホームページ上で示すとともに、その適正な運用に努める。	[1-1]　基本方針については、本学ホームページ上で公開している。	[1-1]資料：本学ホームページ「障がい学生支援」
	[1-2]　障がいのある学生の学業成績（GPA、資格取得状況など）の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。	[1-2] 成績確定後（前期・後期の２回）に、アクセシビリティ推進委員会の会議において、障がいのある学生の学業成績（GPA、単位修得状況）の情報を確認し、関係各所と状況共有するとともに、必要な支援を行った。 　また、１年生とはこの１年間を振り返っての面談を実施し、改善等が必要な事柄について確認を行った。	[1-2] 資料：本学に在籍する障がい学生・支援利用学生一覧おおよび修学状況および進路状況について （第 12 回アクセシビリティ推進委員会回収資料） 　GPA3.0 以上　11 名・就職 7 名
2018年度	年次計画内容		
	[1-1]　「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」をホームページ上で示すとともに、その適正な運用に努める。		
	[1-2]　障がいのある学生の学業成績（GPA、資格取得状況など）の情報を把握し、必要に応じて関係各所との協力により支援体制を確保する。		

（３）経営学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を入試要項、ホームページなどで明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。その際、単位取得、GPA、進路決定状況など具体的な数値よって検証する。			[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　もとめる学生像および修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。	学部のホームページを通じて明示した。	適切に情報を公開することが出来た。
	[1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。	示すことが出来なかった。	公開することが出来なかった。
	[1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長について検証する。	教務委員会において検証を行なった。	学科ごと、専攻ごと、ゼミごとに個別に指導できるデータを提供した。
2018年度	年次計画内容		
	[1-1]　経営学部としてもとめる学生像および修得しておくべき知識等の内容・水準を明示すると共に、社会科学系学部再編に向けた検討を進める。		
	[1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。		
	[1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長について検証する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関して、会計ファイナンス学科の定員を 2014 年度から削減したが、さらに経営学科も含め大学執行部、理事会などと連携をとりながら対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性について引き続き検証を行なう。	前年度に引き続き、教務委員会において検証を行っている。	目標は達成できていないが今後改善を図っていく。

	[2-2]　学部全体の定員についての検討を続ける。	前年度に引き続き、検討を行っている。	更なる検討が必要である。
2018年度	年次計画内容		
	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性について引き続き検証を行なう。		
	[2-2]　社会科学系学部再編に伴う定員についての検討を行う。		

（４）経済学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　求める学生像および、経済学部の教育内容を明示する。 [1-2]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を検証する。 [1-3]　ＡＯ入試や推薦入学入試制度の検証を継続し、入試手段別に入学者学生の現況を把握する。 [1-4]　指定高校などの高大連携を図り、初年次学生の基礎力の担保を推進する。			[1-1]①入試要項、ホームページでの公開 [1-2]①修学ポートフォリオ提出状況 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤資格等取得状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 [1-4]①高校巡回実施状況
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　経済学部ホームページにおいて導入教育、インターンシップ及び研究紀要の内容を更新する。	導入教育、インターンシップ及び研究紀要の内容を更新作業はできなかった。来年度から全学的なホームページ更新が控えているため、その時点で最新の情報が掲載できるようにしたい。	全学的なホームページ更新により、正確な情報を提示したい。AO 入試の課題は経済学部ホームページで公開した。
	[1-2] 1）修学ポートフォリオの項目を検討するとともに、学生自身で成長を確認させる。 2）ポートフォリオを用いた学生一人ひとりの修学指導の方法を検討する。	1）1，2 年生に対して修学指導を実施した。 2）修学ポートフォリオの書式を変更し、指導に役立つ内容に改めた。	学生の成長を支援する施策は実施しているが、受け入れた学生の成長を検証することは未完全である。
	[1-3]　入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注意点を探る。	昨年度入試手段別の成績および学籍異動の基礎資料の作成はしたが、さらなる分析は行っていない。次年度の課題である。	入試手段別に入学者学生の現況をしっかりととらえるところまでは至っていない。
	[1-4] 1）入学前学習の状況を高校に説明する。 2）高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、昨年度以上に情報を共有する。	1）入学前学習の内容、結果は、高校巡回で逐次説明を行なった。 2）在学生の状況を把握するため、はぐくみへの記入を促した。	指定高校などの高大連携は具体的には検討していない。しかし、初年次学生の基礎力の担保を推進するよう、努めた。
2018年度	次計画内容		
	[1-1]　様々な教育内容を紹介するため、経済学部ホームページに新着記事を昨年度並みに掲載する。		
	[1-2] 1）修学ポートフォリオの項目を検討するとともに、学生自身で成長を確認させる。 2）ポートフォリオを用いた学生一人ひとりの修学指導の方法を検討する。		
	[1-3]　入試手段別の成績および学籍異動を分析し、入学者の今後の動向の注意点を探る。		
	[1-4] 1）入学前学習の状況を高校に説明する。 2）高校巡回において在学生の状況を一人ひとり説明できるよう、昨年度以上に情報を共有する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する検討を行う。			[2-1, 2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　定員の確保に努力する。過去５年間の入試手段別の定員充足率を元に、重点化すべき入試対策を検討する。	高校巡回、相談会において、就職実績を前面に出した学部の魅力をアピールすることに努めた。	①入学定員充足率は 83.3％と前年度に比べて高くなっているが、十分ではない。定員確保を目指したい。 ②収容定員充足率も 64％となっていて昨年度を上回る結果となった。入学定員充足率を上げることによりさらに高くなるよう努めたい。
	[2-2]　入試制度の検討を昨年度に続き行う。	自己推薦入試を導入したが、運営する段階でその目的などに不透明さがあった。また、スカラシップ入試では一定数の学力上位層を受験があった。	全学的な入試制度の変更をこれからも求めていきたい。
2018年度	年次計画内容		
	[2-1]　定員の確保に努力する。過去５年間の入試手段別の定員充足率を元に、重点化すべき入試対策を検討する。		
	[2-2]　入試制度の検討を昨年度に続き行う。		

（５）人文学部人間科学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　アクセシビリティ推進委員会との連携のもとに障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1,1-2 共通] 入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学修行動調査 ②学生満足度調査の活用 ③卒業生満足度調査の活用 ④入学年度別 GPA 分布・推移 ⑤進路決定状況（業種別等を含む） ⑥ 資格等取得状況 ⑦入学年度別学位授与率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。	[1-1] もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知した。	[1-1] 学科教員による出張講義を３回実施した。進学相談会は８回、構内ガイダンスおよび地方で実施されたすべての大学進学セミナーに入試委員および学科教員で対応した。4 回のオープンキャンパスにおける対応件数（希望学科として本学科を選んだ件数）が 220 件であった。
	[1-2]　学科としての障がいのある学生の受け入れ方針とその示し方は、「札幌学院大学　障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって行う。	[1-2] アクセシビリティ推進委員会による障がいのある学生の受け入れ方針にしたがって適切に実施している。 2017 年度、障がいのある学生は 1 名(他に配慮を要する学生 1 名)が入学し、アクセシビリティ推進委員会・担任教員・教育支援課担当職員の連携のもとに、入学前と入学後の対応を適切に実施した。	[1-2] アクセシビリティ推進委員会による大学としての受け入れ方針をホームページで公開している。 本学 HP 掲載内容
	[1-3] 昨年度に引き続いて、GPA での成績分布の学年別差異や特徴について検討を進めていく。	[1-3] 2014～2017 年度入学生の成績分布の推移では、学年進行とともに GPA にバラツキが生じ、平均値が下がる傾向がある。	[1-3] 2015 年～2016 年度入学生の今年度の GPA 成績分布は正規分布ではなく、中間層が細り、両極分化する傾向がみられる。この傾向が一過性のものであるか否かについて、引き続き注視していく必要がある。 【指標「人文学部入学年度別 GPA 推移【2017 年度】および人文学部入学年度別 2017 年度 GPA 分布図】
2018年度	年次計画内容		
	[1-1] もとめる学生像および入学するにあたり修得しておくべき知識等については、入試ガイド、AO ガイド、ホームページ等を通じて明示するとともに、オープンキャンパス、進学相談会等を通じて、受験生に周知する。		
	[1-2] 学科としての障がいのある学生の受け入れ方針とその示し方は、「札幌学院大学　障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」及びアクセシビリティ推進委員会によるホームページ、パンフレット等にしたがって行う。		
	[1-3] 昨年度に引き続いて、GPA での成績分布の学年別差異や特徴について検討を進めていく。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。	[2-1] 収容定員 520 人（130 人×4 学年）に対して、2012 年度から 2017 年度までの在籍学生比率を把握した。	[2-1] 2012 年度から 2017 年度までの収容定員充足率（②）の推移は、0.98、0.95、0.86、0.76、0.65、0.58。 【指標②収容定員充足率】
	[2-2] 定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。また、在学生とも連携しオープンキャンパスにおけるミニ講義などの学科企画等を通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。	[2-2] 定員確保を目標として、広報・入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、学科カリキュラムの魅力を伝える。また、オープンキャンパスにおけるミニ講義等を通じて、学科カリキュラムの魅力を積極的に伝えた。	[2-2] 目標の達成にはいたらなかった。2012 年からの 2017 年度までの入学定員充足率（①）の推移は、0.95、0.88、0.65、0.56、0.52、0.68。 【指標②収容定員充足率】
2018年度	年次計画内容		
	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の動向を把握する。		
	[2-2]　定員確保を目標とする。入試課と連携し、高校訪問、進学相談会、大学進学セミナーを通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。また、在学生とも連携しオープンキャンパスにおけるミニ講義などの学科企画等を通じて、人間科学科での学びの魅力を伝える。		

（６）人文学部英語英米文学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・	[1-1]入試要項、ホームページでの公開

水準を明示する。 [1-2]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-2] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況（業種別等を含む） ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・４年間卒業率
2017 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] アドミッション・ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス・出張講義・進学相談会・高校訪問などの場を活用する。	5 回実施されるオープンキャンパスの学科説明会や個別相談会、学外での進学相談会や校内ガイダンスにて、アドミッション・ポリシーの周知を徹底した。英語関連の出張講義やミニ講義でも、部分的にアドミッション・ポリシーに言及するなどの工夫も行なった。	入試要項、ホームページでの公開を行なった。 【指標「大学ウェブサイト」】
	[1-2]　4 年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などのデータから可視化するとともに、学生の成長を支援する仕組みについての検討を継続して行う。	4 年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などに基づき検証した。GPA は 4 年間で右肩上がりに伸びている。その要因として、英語資格の上位者が多いことと比例して、GPA4.0 以上の者が 33%と、例年になく多くいたことが挙げられる。一方で GPA2.0 未満の学生が 20%と一定数いることも確認できた。	次年度も 4 年生に関して、その成長と GPA の推移や資格取得状況などのデータに基づき、学生の成長を支援するための仕組みについて検証を行う。 【指標　2017 年度第 10 回学科会議資料「英語英米文学科 4 年生の内定状況について」「学位記授与式の学科代表について（4 年生取得単位・GPA 一覧」「2017 年度人文学部入学年度別 GPA 推移」】
2018 年度	年次計画内容		
	[1-1]　アドミッション・ポリシーの周知をさらに徹底する。具体的には、オープンキャンパス・出張講義・進学相談会・高校訪問などの場を活用する。		
	[1-2]　4 年生に関して、その成長を GPA の推移や資格取得状況などのデータから可視化するとともに、学生の成長を支援する仕組みについての検討を継続して行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。 [2-3]　魅力的な対外広報を行なう。			[2-1] ②　入学定員充足率 ①　収容定員充足率 [2-2]オープンキャンパス・大学相談会参加状況 [2-3]ホームページ・ブログ・入試課で行なうアンケート
2017 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　過去 5 年間（2013 年度から 2017 年度入試）の収容定員に対する在学生比率を算出する。	過去 5 年間で、4 学年全体の収容定員に対する在学生比率が 1.0 を上回った年度はない。しかし、定員変更と 2014 年度の定員充足率が 1.0 を超えたため、在学生比率は昨年度の 0.94（4/25 時点）から 0.99（4/21 時点）と改善した。	算出は行なった。次年度も継続するとともに、定員充足率の上昇に向け、より魅力的な広報の策を練る必要がある。 【指標②】 【指標「2016 年度第 2 回英語英米文学科会議資料」】 【指標「2017 年度第 2 回英語英米文学科会議資料」】
	[2-2]　過去 5 年間を見る限り、本学科が定員を超えたのは 2014 年度のみであり、恒常的に定員未充足の状態が続く。2018 年度入試では定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、オープンキャンパスや進学相談会等で高校生や保護者に、本学科の魅力や雰囲気の良さをアピールする。	進路指導部訪問だけでなく、本学科の OB・OG 教員や知人教員を訪問し、高校教員へのアピールに努めた。オープンキャンパスでは学科のアドミッション・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを説明し、かつ、高校生にも理解できる難易度で本学科の学びを体験してもらうコンテンツを用意した。進学相談会や校内ガイダンス等も可能な限り入試委員が参加し、高校生へのアピールに努めた。	進学相談会・校内ガイダンスで英語英米文学科への相談者数は、2016 年度は 149 人（全 175 回）に対し、2017 年度は 250 人（全 188 回）と増加した。また、全 5 回開催（前年度 3 月から今年度 11 月まで）のオープンキャンパスの来場者で本学科に興味を示した合計人数は、2016 年度は 140 名に対し、2017 年度は 138 名とほぼ同数だった。新学部設立に関わる広告、新札幌キャンパス移転決定、スカラシップ特待生制度などによる効果か、昨年度に比べ、高校生や保護者の反応はよかった。 【指標「2016 年度進学相談会・校内ガイダンス集計表」】 【指標「2017 年度進学相談会・校内ガイダンス集計表」】 【指標「2017 年度オープンキャンパス参加者数集計表」】
	[2-3]　本学科をアピールする方策として、新ホームページとブログによる発信を継続して行う。	前年度にリニューアルした学科のホームページを活用し、新着情報の発信を継続して行い、学科の教育内容と魅力のアピールに努めた。	来年度にリニューアルされる大学ホームページにおいて、現行の学科ホームページの内容がどのように継承されているかを検証し、その中での情報発信方法を検討する。 【指標「学科ホームページ」「学科ブログ」】
2018 年度	年次計画内容		
	[2-1]　過去 5 年間（2014 年度から 2018 年度入試）の収容定員に対する在学生比率を算出する。		
	[2-2]　過去 5 年間を見る限り、本学科が定員を超えたのは 2014 年度と 2018 年度であり、定員未充足の状態にやや改善の兆しが見える。2019 年度入試でも定員を確保すべく、高校訪問等で高校教員に、オープンキャンパスや進学相談会等で高校生や保護者に、本学科の魅力や雰囲気の良さをアピールする。		
	[2-3]　今年度にリニューアルされた大学ホームページにおいて、前年度までの学科ホームページの内容がどのように継承されているかを検証し、その中での情報発信方法を検討する。		

（７）人文学部こども発達学科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　こども発達学科がもとめる学生像、当該課程に入学するにあたり修得しておくべき知識等について、その内容・水準等を明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す [1-3]　修学において支援を要する学生への措置を適切に行う。 [1-4]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長過程を、当該学生の学修成果を基に検証・共有化する。	[1-1、1-2、1-3 共通] ①入試要項、入試関連の広報媒体、ホームページ ②高校訪問・OP・進学相談会等での実績 ③入学前学習 [1-4] ①学生生活満足度調査 ②卒業予定者への調査 ③入学年度別 GPA 分布・推移 ④進路決定状況（業種別等を含む） ⑤教員・保育士採用等の採用状況 ⑥入学年度別学位授与率・４年間卒業率 ⑥「はぐくみ」の利用

2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　こども発達学科がもとめる学生像や入学するにあたり修得しておくべき知識の内容・水準を入試広報物およびホームページ等で受験生に明示する。また、在学生へこれらが入学前にきちんと周知され、大学での学習に活かされているか検証する。さらに、入学予定者に対しては入学前学習を課す。	もとめる学生像や入学するにあたり修得しておくべき知識の内容・水準を受験生に明示した。さらに、入学予定者に対しては入学前学習を課した。	対処を 3/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-1:入学生への内容・水準等を明示】 【指標「入学案内」※現物提出】 【指標②】 【指標「推薦,ＡＯ入学者入学前学習指導」】
	[1-2]　障がいのある学生の受け入れに際しては、アクセシビリティ推進委員会と連携しながら環境整備を進める。	聴覚に障がいのある 1 年生に対して、入学前にアクセシビリティ推進委員会と学科関係者で立てた方針に基づき支援を行い、適宜本人への面談を行い検証した。これについて学科会議で報告し、学科全教職員で共有した。	対処を 3/3 実施。検証を 2/2 を実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-1:障がいのある学生の受け入れ方針】 【指標「入学案内」※現物提出】 【指標②】 【指標「推薦,ＡＯ入学者入学前学習指導」】 【根拠資料　聴覚障がいＴさんの配慮と対応について】 【根拠資料　聴覚障がいＴさんの振り返り面談】（前期、後期）
	[1-3]　修学において支援を要する学生に対しては、学科内で情報を共有するとともに、適宜関係部署と連携しながら修学支援の内容を考えていく。	入学前に場面緘黙が判明した Ｉ さんについて、アクセシビリティ推進委員会と連携し、本人の確認を得て、学期開始時に授業担当者宛に配慮のお願い文書を配布した。また、クラス担任による個別指導を実施し、学科会議で随時検証を行った。	対処を 2/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 1/1 を実施。 【根拠資料　2017 年度新入生の場面緘黙について】 【根拠資料　場面緘黙学生Ｉさんに対する授業配慮についてのお願い】 【根拠資料　場面緘黙学生Ｉさんの近況報告（2018 年 3 月 6 日発信メール文書）】
	[1-4]　学科内で学生の修学状況や進路希望などについて情報を交換するとともに、学生の単位取得状況、教員採用状況、卒業後の進路等についても学科会議などで情報を共有する。卒業生間や大学との連携強化に活かす。また、修学状況の把握に「はぐくみ」を活用する。	毎月実施する学科会議において，学科会議で学生の修学状況や進路希望、学生の単位取得状況、教員採用状況、卒業後の進路等について情報を共有した。特に，進路希望、単位取得状況、教員採用および保育士採用，卒業後の進路等は全ての教員情報を共有してきた。単位取得状況が芳しくない学生数名については，担当する教職員が本人や保護者と面談を行いその情報を学科会議において共有し，今後の学生支援の方向性などを検討した。また、修学状況の情報交換に「はぐくみ」を一部の教職員が活用した。さらに、単位取得状況が思わしくない学生については、担当する教職員が本人や保護者との面談記録を作成し、学科会議で報告するなどして情報を共有している。	対処を 2/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-1:学生の成長過程と学修成果より検証・共有化】 【指標③】 【指標②進路決定状況】 【指標「卒業率・進級率推移表」】 【指標「コミュニケーション記録登録件数」】 【指標「こ発在学生の進路希望調査」】

2018年度	年次計画内容
	[1-1] こども発達学科がもとめる学生像や入学後必要な知識の内容・水準を各種媒体を通じて受験生に明示し、入学予定者に対しては入学前学習を適宜課す。
	[1-2]　障害のある学生の受け入れに際しては、アクセシビリティ推進委員会と連携しながら環境整備を進める
	[1-3]　修学において支援を要する学生に対しては、学科内で情報を共有するとともに適宜関係部署と連携しながら、留学生など多様な学生への修学支援の内容を考えていく。

	[1-4] 学科内で学生個別の修学状況や進路希望などについて情報を共有する。さらに，修学において支援を必要とする学生についても情報を共有するとともに関連機関との連携を図る。そして，学生状況の把握と情報共有として「はぐくみ」を活用する。卒業生及び進路先の聞き取りから、社会で発揮される学習効果の適切な把握に努める。

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証し、再編方針を決定する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。 [2-3] 検証した再編方針にもとづき、募集人員の適切性を検証し、確保しうる再編を検討する。			[2-1、2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 収容定員と在籍学生比率の適切性における課題を整理して再編方針を決定する。	前年度までの収容定員と在籍学生比率の適切性の検証に基づき、他学科と協力し再編方針の人文学部案をとりまとめた。	対処を 2/2 実施。検証を 1/1 を実施。達成 1/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:収容定員と在籍学生比率の適切性の検証】
	[2-2] 入学定員を回復する見通しをたて、充足のために効果的な取り組みに注力する。	4 年連続定員未充足への対応を検討した。具体的には、学科に関する各入試制度の定員配分を見直した。	対処を 2/2 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:過剰・未充足に関する対応】 【指標①②】
	[2-3] 上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を確保しうる再編を行う。	今年度の入試動向も参考にしつつ、各入試制度の定員配分を変更する検討を行い、その方向で実施することとなった。	対処を 1/1 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D5-2:募集人員の適切性を検証】 【指標①②】
2018年度	年次計画内容		
	[2-1] 収容定員と在籍学生比率の適切性における課題を整理して、今後の改組に効果的に活用できるようにする。		
	[2-2] 入学定員を回復する見通しをたて、充足のために効果的な取り組みに注力する。また、退学率は 3%未満を維持する。		
	[2-3] 上記の分析に基づき、今後の改組に向けて、適切な募集人員を確保しうる新たな方策を創造する。		

（８）心理学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1] アドミッション・ポリシーを刊行物・ＨＰなどで公開する [1-2] アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、障害を持つ学生の受け入れ態勢を整備する。 [1-3] 学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1,1-2 共通] 入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 前年度同様、アドミッション・ポリシーを HP に掲載したり、オープンキャンパスの際に説明したりすることを継続する。	アドミッション･ポリシーを HP に掲載し、オープンキャンパスで毎回説明した。	実施済み 【指標なし】
	[1-2] 前年度同様、アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会と連携し、配慮事項を徹底させる。	アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会との連携を学科会議で確認した。また、学生相談室と意見交流を行った。	実施済み 【指標なし】
	[1-3] 上記のようにデータベース案をつくり、入試方法によって、GPA の推移、進路決定状況、資格取状況に違いがあるかを検証できるようにする。	入試形態の違いによる GPA や進路決定状況、資格等取得状況などの、膨大な量的データの経年変化について分析することができた。	新学部設置に伴い、新たに必要な評価尺度の吟味と、経時的測定・分析・振り返りが必要である。【指標なし】
2018年度	年次計画内容		
	[1-1] 前年度同様、アドミッション・ポリシーを HP に掲載したり、オープンキャンパスの際に説明したりすることを継続する。		
	[1-2] 前年度同様、アクセシビリティ委員会、バリアフリー委員会、学生相談室と連携し、配慮事項を徹底させる。		
	[1-3] 新学部設置に伴い、新たに必要な評価尺度の吟味と、経時的な測定・分析・振り返りを行う。		
	[1-4] 公認心理師等を積極的にめざす学生を受け入れ、育成する方法を検討する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1] 収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2] 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-2] 「心理学部」開設にあたり、定員 95 名の充足に向けて、広報の充実を計る。昨年度に引き続き、高校生向けの心理学講座を開催するほか、教員向けの心理学講座も開催し、本学における教育力を対外的に広報する。また、高校生に向けて「心理学」の面白さをアピールするパンフレットを作成し配布する。	学科教員で札幌近郊の高校を対象にした訪問による広報を展開した。 学校教員向けの心理学講座を 1 回、加えて一般市民向けの心理学講座を 1 回開催し、心理学部の開設およびその内容について広く周知することに努めた。 また、高校生向けの「心理学」に関するパンフレットの作成と配布、ホームページの作成と公開を行った。	①心理学部臨床心理学科の入学定員充足率は 1.08 である。 ②人文学部臨床心理学科の収容定員充足率は 0.53（３月末：卒業生を除く）である。 （なお、人文学部臨床心理学科の収容定員 380 名に心理学部臨床心理学科の新入生 103 名を加えて計算した場合、収容定員充足率は 0.78 となる。） また、学校教員向けの心理学講座には 58 名、一般市民向け心理学講座には 52 名が来場し、一定の宣伝効果があった

			ものと考えられる。
2018年度	年次計画内容		
	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。		
	[2-2] 引き続き、定員 95 名の充足に向けて、広報の充実を計る。昨年度に引き続き、学校教員向けの心理学講座を開催するほか、高校への教員向け主張講座も行うなどをして、本学における教育力を対外的に広報する。		

（９）法学部

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　求める学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのか検証する。 [1-3]　入試制度の区分に応じた学生の成長を把握し、入試制度の検討を行う。			[1-1]①入試要項、履修要項での記載、ホームページでの公開実績 [1-2] ①入学年度別学位授与率・4 年間卒業率 ②進路決定状況 ③GPA 分布 ④資格等取得状況 ⑤法学検定試験ベーシックコースの合格状況 ⑥ボランティア活動への参加状況 [1-3] ①入学年度別学位授与率・4 年間卒業率 ②GPA 分布
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　求める学生像、入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項、ホームページなどで明示する。	入試要項、履修要項ともに学部の教育目標や各種ポリシーを明記している。ホームページではこれらを高校生にわかりやすく説明している。	入試要項、履修要項を参照；http://www.sgu.ac.jp/law/にて適切に公開している。またフェイスブックにおいても、積極的に学部の情報を公開している。
	[1-2]　学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのかを、単位取得状況、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、進路決定状況、GPA 分布などの指標を通じて検証する。	新カリキュラムが 4 年生を迎えるなか、前年に引き続き法学検定ベーシックに一定数の合格者を出し、法学検定スタンダードにも若干名合格した。公務員試験の合格者に関しては、母数が少ない中で健闘した。また CUP の成果として、難関の情報系企業に就職する学生も出て来ており、学生の成長を多角的に把握できる状況にある。	資格取得者表彰8名、法学検定ベーシック合格59名（3年生以上3名、2年生30名、1年生26名）、法学検定スタンダード合格4名、就職率90.7%（2月末時点の4年生）、公務員合格者数16名（のべ人数、うち北海道道庁現役１名、北海道警察現役合格４名、道内市町村現役合格５名）
	[1-3]　入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、GPA 分布を通じて把握し、入試制度の検証につなげる。なお入試制度と学生の成長との関係をより正確に把握するための仕組みづくりを検証し、場合によっては改善を行う。	トップアップクラスや AO 入試入学者を中心としたクラスなど実験的な性格を伴ったクラス編成をおこなった学年が、完成年度の 4 年生になった。入学者が少ないながら、公務員志望者や資格取得者、さらにはボランティア・地域貢献を目指す者など多様な学生が育まれている。入試制度とのさらなる連携を踏まえた、新しい仕組みづくりの検討を続けたい。	2017 年度の卒業対象者卒業率 87.9%、4 年間での卒業率72.0%、前者は前年より 4.4%ダウン、後者は前年より 3.9%ダウンした。
2018年度	年次計画内容		
	[1-1]　求める学生像、入学するにあたり修得しておくべき知識等の内容・水準を、入試要項、履修要項、ホームページなどで明示する。		
	[1-2]　学生の受け入れ方針が求める学生に成長しているのかを、単位取得状況、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、進路決定状況、GPA 分布などの指標を通じて検証する。		
	[1-3]　入試制度の区分に応じた学生の成長を、入学年度別学位授与率・4 年間卒業率、GPA 分布を通じて把握し、入試制度の検証につなげる。なお入試制度と学生の成長との関係をより正確に把握するための仕組みづくりを検証し、場合によっては改善を行う。とりわけスカラー入試制度で入学してきた学生についてはトップアップの観点からサポートする態勢作りを行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　在籍学生比率は、当該年度の収容定員および実際の入学者によって変動するため、適切な定員管理ができているかを検証する。	2014 年度入学生数を底にして入学者数は改善傾向にある（2015 年度 101 名、2016 年度 112 名、2017 年度 110 名）。高校生数の減少を考えると頑張っていると思うが、定員を充足するまでの回復は難しい状況にある。	2014 年度の充足率は 38%、2015 年度の充足率は 67%、2016 年度の充足率は 75%、2017 年度の充足率は 73%である。
	[2-2]　在籍学生数の過不足を検証・評価し、適切な定員数を検討する。	新カリキュラムの完成年度になり、公務員試験に強い「札幌学院大学法学部」というブランド力が、ある程度、評価されてきたことは確かである。特に、地方自治体の職員希望の学生が増えてきたことは良い兆しと言える。しかしながら、公務員志望の学生を頼りにしたポジショニング戦略では、さらなる	2017 年度入学者は、前年度の入学者とほぼ同じ人数を確保することができたが、定員の 150 名に近づけることはできなかった。2018 年度入学者数は、3 月時点では 115 名を予想しており、入学定員充足率は 75%を超える見込みであ

		学生を獲得するのは難しい状況にある。そのため高校側に、教育の質をアピールできる模擬裁判や模擬選挙等の出張講義を積極的に開催し、実績も出てきた段階にある。したがって定数の削減案については、今後の検討課題としたい。	る。
2018年度	年次計画内容		
	[2-1]　在籍学生比率は、当該年度の収容定員および実際の入学者によって変動するため、適切な定員管理ができているかを検証する。		
	[2-2]　在籍学生数の過不足を検証・評価し、適切な定員数を検討する。		

（１０）大学院法学研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から不断に検証する。			[1-1,]①入学案内・ホームページでの公開 [1-2] ①単位修得状況 ②GPA 分布 ③資格等取得状況 ④学位授与率 ⑤修了生進路状況
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　求める学生像及び入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を示すアドミッション・ポリシーが適切であるか検討する。	[1-1]　求める学生像については、新たに改訂したアドミッション・ポリシーに示されている。入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準については、法学部以外から志望する受験生が多いことを考慮して、説明会等で法学の基礎、志望する専攻以外の法律について学部生レベルの修得が必要なことを説明した。	
	[1-2]　2016 年度に引き続き、入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から検証する。	[1-2] 入学者選抜方法について公平性の観点から採点方法について一定の工夫を行った。	
2018年度	年次計画内容		
	[1-1]　求める学生像及び入学前に修得しておくべき知識等の内容・水準を示すアドミッション・ポリシーが適切であるか検討する。		
	[1-2]　2017 年度に引き続き、入学者選抜方法について、公平性・適切性等の観点から検証する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を不断に検証する。 [2-2]　定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　2016 年度に引き続き、収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるよう努める。	[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるように努めた。税法志望者が多い中、税法担当教員、税法関連非常勤講師等と協力し、合格者数をある程度確保した。まだ定員充足には満たないが、この定員は専任教員が 2 名体制の下で設定された人数である。今後、法学研究科への需要を適切に見通し、定員を維持していくのか、定員を引き下げるのかを運営会議及び研究科委員会などで検討していきたい。	①2017 年度入学定員充足率→40% ②2017 年度収容定員充足率→60%
	[2-2]　定員と入学者数の開きが大きいため、大学院のあり方も含め、適切な定員数を検討する。	[2-2]　現在の体制で最大限の努力により入学者を確保したが、大学院の今後の方向性及び適切な定員数を検討する。	
2018年度	年次計画内容		
	[2-1]　2017 年度に引き続き、収容定員に対する在籍学生比率を適切な範囲に収めるよう努める。		
	[2-2]　当面の法学研究科存続という状況、ならびに大学院再編後における税理士養成の維持発展の可能性を織り込み、現行定員の確保を確実なものとするため教員確保の手立てを具体的に提案する。		

（１１）大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　一般入試ならびに社会人入試(一期、二期)、学内特別選抜入試の制度と内容について運営会議における検討を継続する。 [1-2]　受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。			[1-1,1-2 に共通] ①受験者数、合格者数リスト
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　三回の入試の状況を把握し、検討を継続する。	計画に沿って遂行した。 学内特別選抜・一期・二期の各入試状況は研究科委員会で報告され、研究科運営委員会において、制度・方法・状況についての検討を継続した。	達成

	[1-2]　受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。	計画に沿って遂行した。 学外での大学院説明会の出席者は例年低迷しているが、公認心理師法の公布が 9 月と大きく遅れたため、学部レベルでの公認心理師資格要件の充足・未充足の問題、公認心理師資格要件を満たす新カリキュラム開始など、受験者増につながらない不安定な状況があることを確認した。	達成
2018年度	年次計画内容		
	[1-1]　三回の入試の状況を把握し、検討を継続する。		
	[1-2]　受験生数(社会人を含む)、合格者数を把握し分析する。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　入学定員に対して超過・不足に至らないように配慮する。 [2-2]　社会人の入学を促進するために必要な授業料減額について検討する。			[2-1] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率 [2-2]①他研究科との授業料の対比
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　入試の状況と、超過･不足の状況を把握する。	計画に沿って遂行した。 各入試実施後に研究科委員会において状況報告がなされた。公認心理師法の公布が遅れたため、受験者数減など入試状況にマイナスの影響があった。	①　実施
	[2-2]　他研究科との授業料の格差の説明を求める。	計画に沿って遂行した。 全学運営会議において、研究科長から他研究科との授業料格差についての指摘を行った。	①　実施
2018年度	年次計画内容		
	[2-1]　入試の状況と、超過･不足の状況を把握する。		
	[2-1]　他研究科との授業料の格差の説明を求める。		

（１２）大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　もとめる学生像および、当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準を明示する。 [1-2]　障がいのある学生の受け入れ方針を示す。 [1-3]　学生の受け入れ方針に基づいて受け入れた学生の成長を、当該学生の学修成果に基づいて検証する。			[1-1,1-2 共通] ①入試要項、ホームページでの公開 [1-3] ①院生アンケート ②資格等取得状況
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める学生像、習得しておくべき知識などを明示するとともに、入学志願者に対して事前に書籍などを紹介する。	入試案内パンフレットに教育目標、アドミッション・ポリシーなどを記載した。また入学志願者に対して事前に読む書籍のリストも作成した。	
	[1-2]　障害のある学生の受け入れ方針を検討する。	「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」に沿って大学院生の受け入れを行うことを決め、特に独自の受け入れ方針は作成しないこととした。	
	[1-3]　修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた学生の成長の度合いを検証する。	修士論文において大学院生がそれぞれのテーマを持って論文に取り組み、成長の跡が見られた。	①院生へのアンケートを行った。 ②資格取得者はいなかった。
2018年度	年次計画内容		
	[1-1]　入試案内パンフレット、大学院の説明会等で求める大学院生像、習得しておくべき知識、研究できる内容などを明示するとともに、入学志願者に対して事前に書籍などを紹介する。		
	[1-2]　修士論文の内容の検証、院生アンケートなどで受け入れた大学院生の成長の度合いを検証する。		
	[1-3]　「札幌学院大学障がい学生の受入れ及び支援に関する基本方針」に沿って大学院生の受け入れを行う。		

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　収容定員に対する在籍学生比率の適切性を検証する。 [2-2]　定員の見直しやカリキュラムの見直しの検討、広報活動を通じて定員に対する在籍学生数の未充足に関する対応を行う。			[2-1,2-2 共通] ①入学定員充足率 ②収容定員充足率
2017年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]　これまでの入学者数の動向を検証し、定員の見直しを検討する。	来年度の入学者は 2 名にとどまった。定員の見直しには踏み込めなかった。	①今年度の入学定員充足率 35%(資料 3) ②今年度の収容定員充足率　30%(資料 4)
	[2-2] ①大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの見直し、パンフレットの配布先の拡大を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・地方自治体や JC 等各種団体への PR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせて PR を行う。	①大学ホームページに大学院の案内の他にいくつかの行事などをお知らせに掲載したが、十分とはいえない。パンフレットについては社会連携センターの閉鎖に伴い、十分な配布を行うことが出来なかった。 ②専修免許状の資格取得については取り下げることとした。	

	②専修免許状の資格取得をカリキュラムに位置づけ続けるかどうか検討する。		
2018年度	年次計画内容		
	[2-1] これまでの入学者数の動向を検証し、大学院再編時の収容定員を検討する。		
	[2-2] 大学ホームページの利用、入試案内用パンフレットの修正、パンフレットの配布先の拡大を通じて大学院の志願者数の増加に努める。このほか ・OB・OG、同窓会の活用 ・札幌学院大学コミュニティ・カレッジ等での広報を行う。 ・地方自治体、企業、JC 等各種団体への PR ・税理士会等へ、法学研究科と合わせて PR を行う。		